



おもしろいっけの〜♪ 森

平成 29 年度 つるおか森の保育活動記録



はじめに

森の中から子どもたちの元気な声が聞こえてきます。子どもたちは自然にすぐ"に溶け込み、遊び始めます。自ら遊びを見つけ、また遊ぶ中で子どもたち同士の交流も生まれます。森の時間は心地よくゆっくりと流れていきます。

今年1年間の活動を記録した『おもしろっけの～♪森・平成29年度つるおか森の保育活動記録』をお届けいたします。つるおか森の保育研究会は発足から8年が経過しました。鶴岡市の豊かな自然や文化などを活かした“鶴岡らしい森の保育”を目指して活動しています。これまでの活動をふまえ、今年度は新たな活動にも取り組みました。

そのひとつが季節を変えて開催した、親子で参加するワークショップです。三瀬のひやくねん森、三瀬海岸、大網のブナ山、そして冬には雪深い大網で、4回開催しました。海ではびしょぬれになりながら、ブナ山では泥んこになりながら、思いっきり遊ぶ子どもたちの姿がとても印象的でした。地元の食材を使った料理も親子で一緒に作りました。今年のワークショップは、“自然の中でゆっくり過ごすこと”を大切にしました。開催するにあたり、地域の方々からもアドバイスやたくさんのご協力をいただきました。それぞれの地域の自然、暮らし、食や文化などにも触れ、体験することができました。私たちにとっても楽しい、そして多くのことを学んだワークショップとなりました。

また「つるおか森の保育だより」第1号を発行し、皆さまにお届けしました。私たちの活動場所の紹介や森に出かけるときの情報など、たくさんの写真やイラストで紹介しています。これからも続けて発行していく予定です。ぜひご活用頂けたらと思います。

研究会では公募により、ロゴマークも作成しました。“森”の文字を三本の木で描き、それぞれの木の色は新緑から紅葉へと移っていく森の様子を表したものです。このロゴマークのように、さまざまな季節の中で子どもたちがたくさんの自然体験ができ、さらにその輪が広がっていくことを願い、研究会としてこれからも活動に取り組んでいきたいと考えています。

最後になりましたが、本研究会の活動を支え、ご指導・ご協力を頂きました多くの皆さまに心からお礼申し上げます。

平成30年3月

つるおか森の保育研究会

会長 神田リエ

1 森の保育園体験（交流保育）

東部保育園×いずみ保育園

小堅保育園×民田保育園

2 森の保育園体験（自主保育）

松原保育園、上郷保育園、大山保育園、大泉保育園、田川保育園

三瀬保育園、福栄保育園、朝日保育園、

3 森の自然体験

子ども家庭支援センター、中央児童館

4 ワークショップ（初夏・初秋・秋・冬）

5 「つるおか森の保育フォーラム」

6 「写真パネル展」

7 研修会

資 料

森の保育だより、森の保育活動新聞記事等掲載記録、つるおか森の保育研究会の概要、つるおか森の保育研究会会則、オリジナルロゴ

交流保育

つるおか森の保育研究会では、主に市街地の保育園の子どもたちに自然とふれあう機会を与えることを目的に海や山など周辺の自然環境に恵まれた保育園との交流保育を行っています。

(受入園) いずみ保育園 × (訪問園) 東部保育園

いずみ保育園 5歳児34名

平成29年6月20日(火) おたまじゃくし捕まえ(いずみ保育園周辺の田んぼ)

<活動内容>

- 東部保育園のお友だちとペアになり、協力しながら、おたまじゃくしを探したり、見つけて捕まえたりして楽しむ。

活動のねらい

- 他園との交流を通して、発見や驚きを伝え合い、興味・関心を深めていく。
- 田んぼでおたまじゃくしなどの生き物を探したり、草花など自然に触れたりして楽しむ。

「なかなか…見つからないね〜」



「おたまじゃくし入っているかな〜?」



- 最初はおたまじゃくしが少なくて、なかなか見つけれなかったり、田んぼの中心に逃げってしまうおたまじゃくしを捕まえるのが難しかったりしたが、ペアのお友だちと工夫して捕まえる姿が見られた。
- おたまじゃくしをなかなか捕まえられなくてもタニシやトンボの幼虫を捕まえ、楽しむことができた。

- おたまじゃくしが大きくなっていくことやその日の気温が高かったことなど、計画を立てる時に、時期を検討する必要がある。
- 自然が豊かな中で貴重な体験ができることは、昔ながらの遊びを伝承できる良い機会だったと思う。

平成 29 年 10 月 27 日（金） くずのツル引っ張り遊び 市野山カマキリ公園

<活動内容>

- ・東部のお友だちとペアになり、フェンスに絡みついたくずのツルを引っ張ったり、そのツルでリースを作ったりして楽しむ。

活動のねらい

- ・他園との交流を通して、発見や驚きを伝え合い、興味・関心を深めていく。
- ・秋の自然に触れ、くず引っ張り遊びを楽しむ。

「みんなの力でうんとこしょ どっこいしょ」



「よいしょ 登って引っ張ってみよ〜」



- ・最初はフェンスに絡みついたツルが引っ張っても取れず、悪戦苦闘している姿も見られたが、フェンスに登って引っ張ったり、おおきなかぶの

絵本のように、何人がかぐっついて引っ張ったりする姿も見られた。

- ・取れたツルを使い、リース作りを始める子もいた。何回か園庭でツルを使い、リース作りをした経験がある子もいて、自然と真似て作り出す姿もあり、遊びがその時だけでなく、次へ繋がるものになっていった。

・フェンスに絡みついたものが多く、なかなか取れないことはあったが、広くて安全な場所と考えるとカマキリ公園で良かったと思う。その場でリースにできたことも良かったと思う。

東部保育園 5歳児 29名

平成 29 年 10 月 27 日（金） くずのツル引っ張り遊び 市野山カマキリ公園

<活動内容>

- ・東部のお友だちとペアになり、フェンスに絡みついたくずのツルを引っ張ったり、そのツルでリースを作ったりして楽しむ。

活動のねらい

- 発見や驚きを伝えながら交流を深める。
- 身近な自然に触れ自然の生き物を探す。
- 身近な秋の自然物を使って作ったり、遊んだりすることを楽しむ。

- いずみ保育園の友だちと一緒に手を繋ぎ、かまきり公園に行くと、くすのつるがフェンス一面に張っていた。その見たこともない光景に子ども達も驚き、初めはただ力任せに引っ張るばかりだった。つるが絡んでまったく抜けない…。
- いずみ保育園の友だちを見るとフェンスに上がったり、一人で引っ張っている子に「てつだってあげる。」とつながって抜こうと頑張ったりしている。それを見て東部の子ども達も次々とフェンスに上がり一緒につるを引っ張る。しかし、「ぬけな〜い！」そんな姿も楽しそうで笑顔があふれていた。
- 長〜いつるを見ると、宝を発見したように次々と子ども達が集まり、一緒に引っ張っていた。東部保育園と、いずみ保育園の柵を超え自然を通して子ども達の交流が成り立つたように感じる場面も沢山あった。
- 2年間通して行われた交流保育が実り、最後のさよならの会の時は、「またあおうね。」と抱きしめあう姿もあった。

「またあおうね！」



「よし！このつるは、ぼくのものだー！」



「みんなで、つるをひっぱるぞー！
せーの、よいしょー！！」



- かまきり公園に向かうまでの道のりは、自然いっぱい東部保育園の近くでは探せないような、色鮮やかな草花がたくさんあった。
- 今回みんなで引っ張り上げたくすのつるで作ったリース。その飾りつけまでは、時間が限られ保育者が思うような自然遊びまで持っていくことはできなかったが、その遊び方を知らせたり、家庭での休日の楽しみ方を紹介したりするなどして自然遊びへの興味が広がるような関わりもしてあげると良かった。

東部保育園 丸山恵美先生

今回の森の保育に参加して、春・夏・秋・冬の鶴岡の自然をたくさん知ることができました。大自然の中、地域の方々の参加もあって核家族ではなかなか食することのできない地域の料理や食材にも出会うことができました。交流保育も自然体験も、互いに地域のいいところを共有し、今も昔も未来も変わらぬ豊かな自然の中での遊びを楽しむ(ワークショップ)活動の大切さを実感しました。

(受入園・訪問園) 小堅保育園

×

(訪問園・受入園) 民田保育園

小堅保育園 3歳以上児9名

平成29年7月19日(水) 磯遊び 小堅保育園周辺の海(カモメ島)

<活動内容>

- ・岩場に住む生き物を見つけたり、カニ釣りをしたりすることを楽しむ。
- ・カニを素揚げにして味わう。

活動のねらい

- ・本園で楽しんでいる磯遊びを民田保育園のお友だちと共有する。
- ・命をいただいていることを知る。

「そこにカニ隠れた!!」



「カニの素揚げ」



- ・カニや貝、シーグラスを見つけたり、発見したことを楽しんだりしていた。
- ・カニや貝を見つけるが、動くのがわかり、怖くてなかなか手が伸びない様子やカニの動きが素早く、逃してしまうが、カニが隠れた岩の下をじっと見つめている様子があった。手で獲ることは難しい様子もあり、カニ釣りという方法を取り上げたことでカニの匂いに誘われて近づいてくる様子やカニの動きを真剣な表情でみている様子があった。

- ・仲良しになったカニをその場で素揚げにして味わう。初めての経験である民田保育園の子どもはカニを味わうことに「かわいそう」等の言葉が聞かれるのではないかと予想していたが、命をいただいていることを伝えたことで、みんなが大事にカニをいただいている様子が見られた

- 子どもたちの交流というところでは、海遊びを内容としたことで、関わりが少なかった。しかし、夏に海水浴をするだけの海ではなく、海の生き物にふれ遊びの共有をしたり、その生き物の命をいただいているというところで知らせたりすることはできた。

平成 29 年 7 月 19 日（水） 磯遊び 小堅保育園周辺の海（カモメ島）

<活動内容>

- 山形大学農学部農場で栗を収穫

活動のねらい

- 秋の実りを一緒に収穫する。

「栗入っているかな？」



- 民田保育園から山形大学農学部農場まで、本園周辺とは違う自然（田んぼ）を感じながら、一緒に楽しんで散歩できた。
- 栗の木や葉っぱ、栗がイガに入っている様子、緑と茶色のイガ、栗があること等、栗の様子を見る、知ることができた。
- 栗を拾うことを楽しんでいる様子や栗の大きさ比べをして楽しんでいる様子があった。
- 帰園してから、栗の甘さ、美味しさを喜びながら 味わうことができた。

- 秋の味覚の栗にふれることができた。また、栗を拾うことも楽しむ様子はある。
- イガから栗を外して採るということを知っている子どもは、物足りなさ、採った満足感というところで不足したのではないか。

小堅保育園 佐藤とも子先生

交流保育では、民田保育園の子どもたちと遊びの共有ができた。磯遊びの進め方等で保育者自身再確認しながら進めたりすることはできたが、ワークショップ等、本園周辺の自然とは違う自然の中で、近くで子どもたちの反応を感じたり、実際に自分が楽しく遊んだりと参加できたら良かった。森の保育事業に参加したことにより、他園の自然での遊び方、自然の活かし方、自然に対しての向き合い方や考え、様々な活動を知る良い機会となった。

平成29年7月19日(水) 磯遊び 小堅保育園周辺の海(カモメ島)

<活動内容>

- ・磯遊び：潮だまり(タイドプール)等で磯の生き物をつかまえる、カニ釣り、カニの素揚げ

活動のねらい

- ・集団での自然体験活動を通して、子どもが他園児とのかかわりを深める。
 - ・普段と違う環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。
- ・磯辺の生き物を捕まえる中で、同じ目的のために工夫したり協力したりする姿が見られた。
 - ・安全に楽しく磯遊びするためのきまりの大切さを知り、守ろうとしていた。
 - ・共同の磯遊びの用具(釣り竿など)を大切にし、みんなで使う場面があった。
 - ・つかまえたカニをその場で揚げて食べることは、子どもにとって新鮮な体験だった。

- ・磯遊びを通して、一緒に活動する楽しさを味わった。
- ・いろいろな遊びを楽しみながら、自分で考え、自分で行動する様子が見られた。
- ・海の生き物に触れて、その面白さ、不思議さに気付いた。
- ・場所により海辺の自然に変化があることに気づき、場所ごとに違う生き物の発見を楽しんだり、生き物の仕組みに関心をもったりする姿が見られた。

恐々…



(。・ω・)ん?おいしい?



- ・小堅保育園さんの設定で、普段できない磯遊びからつかまえた生き物の調理まで、一続きの体験をさせていただき、子どもだけでなく職員も感銘を受けた。また、遊んだ後の足湯の配慮もありがたかった。
- ・出かける事前・事後に、子ども達と職員が、磯の生き物や磯遊びについて学んだり振り返ったりする時間を設けることができれば、子ども達の探求心を伸ばすことが期待できそうだ。

民田保育園 佐藤崇昌園長先生

本園では、小堅保育園と堅苔沢海岸での磯遊び、湯田川保育園と梅林公園での雪遊び、黄金保育園と金峯山登山という、自然の中で3つの交流保育を行ってきました。私たち職員も、研修事業やワークショップをとおして、多様な自然と豊かな四季の彩りに触れ、鶴岡の環境の豊かさを改めて感じました。

この環境の楽しさ、不思議さ、怖さ、面白さを私たちが知り、子どもたちに伝えていくために、これからも学びあっていきたいと思えます。

自主保育

つるおか森の保育研究会では、山や海が近くにある保育園はもとより、市街地の保育園も身近にある公園や田んぼ、畑などを活用して活動しています。

松原保育園 5歳児 24名、4歳児 25名 3歳児 24名（デイキャンプのみ参加）

平成 29 年 6 月 14 日（水）赤川ジャングル探険（赤川三川橋下付近）

<活動内容>

- ・赤川ジャングルコースを探険しながら、草花見つけのネイチャーゲームを楽しむ。
- ・草花に触れながら遊びに取り入れる。

活動のねらい

- ・ネイチャーゲームをしながら、初夏の草花に触れる。
- ・「探険」を通して、わくわく感や発見の喜びを知り、自ら自然にかかわる力を育む。
- ・五感を働かせながら、初夏の自然を感じる。

「なんか、においがする」



「おばけだぞー」



- ・ジャングルの入り口につくと、赤川のフィールドとは違う音（鳥の鳴き声など）を感じ、「はやくいってみたい」「ときどきする」など、子どもたちのワクワクやドキドキする姿が見られ次への活動を楽しみにする様子が見られた。
- ・桑の実を見つけ、「桑の実だ！これ保育園にもあるよね」と自分が知っている自然物を見つけだすと大喜びする姿や見つけた葉っぱを手にとってみたりにおいをかいだりして五感を働かせ自然を感じていた。
- ・大きい葉っぱを見つけ穴をあけ「お化けだぞー」と遊

ぶ子どもたちの姿が見られた。また、職員がいろいろな草花で遊んでみせると、それを真似て同じ草を摘み同じことをやってみようとする子どもたちもいた。

- ・ネイチャーゲームでは、年長児が年中児の面倒を見ながら楽しんでいる様子もあり、異年齢でのかかわりがみられた。
- ・カタツムリやかえるなども見つけ、カタツムリはそれを保育園に持ち帰り園で飼育した。
- ・自分たちが見つけたカタツムリを観察したり、世話をしたりする様子が見られた。

- 子どもたちが五感を働かせて、ドキドキやワクワクを感じながら活動できた。初夏の自然に子どもたちが積極的にかわり、いろいろな発見の場になった。
- 初めてネイチャーゲームをした年中児も年長児と一緒に活動するなかで自然に触れる楽しさを感じることが出来た。

平成 29 年 10 月 18 日 (水) デイキャンプ in 赤川 (赤川フィールド)

<活動内容>

- 秋の草花を使って、自分だけの冠を作る。
- ジャガイモをホイルに包む経験をしながら、アウトドアクッキングをし食を楽しむ。
- 秋の自然の中でのびのび遊び昼食を摂りながら、自然の中で 1 日を過ごす。

活動のねらい

- 製作を楽しみながら、秋の草花に触れる。
- アウトドアクッキングをしながら秋の味覚を味わう。
- 豊かな秋の自然の中でのびのび遊びながら、気づきや感じる力を育む。

「おいしいじゃがばたーになーれ」



- 自分たちで包んだジャガイモが焼きあがるのを楽しみに待つ様子が見られ、熱々のジャガイモを頬張り「おいしい」と言って満足そうに食べていた。
- 秋の草花を摘んでの冠づくりでは、色のバリエーションを考えて、こだわって作る子どもも多くいた。また、出来上がった冠を皆でファッションショーをして見せあうことで、他児の工夫したところなどを認め合うことができた。
- 「お外でたべるとおいしいね」と言いながらご飯を食べている子もいて、いつもと違う食事の時間を楽しんでいた。

「かんむりかぶっておどろうよ」



- 赤川のフィールドで遊んだりご飯を食べたりすることで、秋の自然を五感で感じながらのびのび楽しんだ一日になった。
- 冠づくりでは、両面テープだけでは張り付かない草もあり子どもたちが自分たちで工夫して貼り付けられるように準備が必要だった。また、3歳児には難しいところもあったので、冠だけでなく何種類か作るものを用意し選んでもよかった。
- アウトドアクッキングの火おこしに時間がかかってしまったので、職員の火おこし経験を増やしていく。

☆その他の自主活動 (対象：5歳児24人 4歳児25人 3歳児24人)

4月	お花見
5月	草花で遊ぶ(お弁当作り・色水あそび・デカルコマニー等)
9～11月	秋探し・草花あそび・アウトドアクッキング
1～3月	雪遊び

松原保育園 五十嵐あき先生

年4回のワークショップで海や山など普段足を伸ばさない庄内の自然を親子で体験できる企画がとてもよかったと思います。来年度も自然体験できる場があれば、自然のよさを保護者の方に発信するきっかけになるので、ぜひ継続してほしいです。森のフォーラムでは、各園の紹介パネルの他にとっておきの一枚の写真から他園の活動の様子がわかり、学びの場にもなりました。

大山保育園 5歳児34名

平成29年11月6(月)～11日(土) 大平山の散策

<活動内容>

- ・身近な散策スポット太平山にて、子どもたちの興味の向くままに散策し、見たり、触れたり、匂いを嗅いだりしながら、一人一人がじっくりと楽しむ。

活動のねらい

- ・季節の移り変わりを全身で感じ、五感を育て、存分に楽しむ。
- ・「発見」「挑戦」をしながら一人一人の成長を育む。

- ・個々のペースで散策をじっくりと楽しめるよう、たっぷり時間を取って山歩きを楽しんだことで「発見」「気づき」があった時には、みんなでしゃがみ込む姿が見られた。
- ・木の枝で、湿った落ち葉をかきわける姿を見せたところ、素手で触ることに抵抗があった子どもたちも無理なく散策を楽しめた。
- ・たくさんの落ち葉の上にジャンプしたり、落ち葉をめがけて斜面を走って下ったりする中で、落ち葉の感触に安心感を覚えたことで、子どもたちの動きがダイナミックになっていった。

「おととと・・・」



「みんながみえるよー」



- あえて同じルートで何日か散策を楽しんだことで、変化を感じやすかった事は良かった。
- 木の枝など、道具を使ったことで、散策の幅が広がった。

☆その他の自主活動 (対象: 4歳児 36人)

5月～	畑の活動 (畑作り・苗植え・水やりなど 世話・観察・収穫)
7～8月	泥んこ遊び
10月	森のふれあい事業参加
12～2月	雪遊び

大泉保育園 4歳児 17名

平成29年7月31日(月) 川あそびを楽しむ(せせらぎ公園)

<活動内容>

- 川に入り、水の冷たさや川の流を感じあそぶ
- 川や川辺の様々な動植物などを探す

活動のねらい

- 夏の自然に触れあそぶ
- 川あそびを通し、水辺の生き物や植物に興味を持つ。

- 川に流れがあることや冷たいため怖々としていく子もいたが、慣れてくるとそれぞれ探索を始めていた。
- 川底の石に興味を持ち大きさや石についている小さな生き物など見つけていた。
- 網やバケツを十分に準備したことで、川の中の生き物を捕まえようと頑張る姿や、捕まえて嬉しそうな姿があった。

- 初めは怖々の子もいたが、子どもたちがいきいきとした表情で楽しんでいた。
- 保育士が網ですくって見せると興味を示し真似をしていた。
- 網やバケツを準備したことで、ザリガニやどじょうなどの生き物を捕まえ、観察することができた。
- 「もっとあそびたかった」「またきたいね」という言葉が聞かれた。

「何がいるのかな？」



- 日頃、接する機会の少ない川あそびを思いっきり楽しむことができていた
- ザリガニやヤゴ、どじょうなどの生き物を見つけ子どもたちがとても興味を持っていた。
- 網やバケツを十分にそろえることで、一人ひとりがやりたいことを十分にでき、楽しむことができた。
- 雨上がりで川の水位も高いことや水も濁っていたため、予定を延期したことで、川に入り存分に遊べる環境になっていた。

☆その他の自主活動（対象：4歳児17人）

7月31日	川遊びを楽しむ
5月	散歩をしながらネイチャーゲーム
10月	秋探し
通年	天気の良い日は散歩を通じ、身近な自然に触れる

上郷保育園 5歳児17名 4歳児13名 3歳児11名

通年 季節の生き物探し・草花あそび

<活動内容>

- 季節探し 四季折々の草花で遊んだり、虫を探したり捕まえたり、自然物で制作を楽しむ。

活動のねらい

- 身近な自然に触れ、五感を感じながら楽しむ。

• 網で虫を捕まえるものの、手で触れることができずに虫かごに入れられない子もいる。年上の子たちの姿を見ながら思い切って触わり、虫かごに入れることができると自信をつけた良い表情で報告し、その後図鑑などで自分の捕まえた虫をしらべている。

- 小さいクラスの子は、大きいクラスの子と虫を捕まえられるようになったことを一緒に喜んだり、虫を観察した後は逃がしてあげることなど学んだりして、憧れをもちながら楽しんでた。
- フキで大きなお面を作ったり、ままごとをしたり、松葉、オオバコ、松ぼっくりなど季節の自然物で草花あそびや制作を楽しんだ。松葉やオオバコの草遊びでは適した草はどれか、友だちと試したりしながら探す様子を見せる。

「ブルブル」

「とんだー！」(松ぼっくりロケット)



- 園舎に隣接しているため、子ども達があそんでいて必要だと思ったものは友だちと相談して取りに戻ったり、自分たちが降園する前には虫も帰してあげようと話し合ったりして自主的に楽しんでいた。

上郷保育園 斎藤志津先生

「森とのふれあい」事業を通じて森遊びの楽しさや危険についても教えていただき、学びながら子どもたちと自然あそびを楽しむことができました。フォーラムでは各園の活動の様子を知ることができました。参加2年目でしたので参考にして今後もさらに楽しみたいと思います。また、どのワークショップも楽しそうな活動でしたので、園内でのお知らせも工夫して楽しさを共有できたらと思います。

田川保育園 1歳児以上の園児26名

平成29年 10月26日 田川の秋探し (保育園周辺と隣接するやすらぎ公園)

<活動内容>

- 園の周辺や公園を散策し、枯葉や木の実、たねなどを見つける。
- 制作に使いたい自然物を見つけ集める。
- 自然物をくっつけたり、飛ばしたりして遊ぶ。
- はじめはきれいな枯葉や木の実を集めることに一生懸命だった子どもたちだったが、保育者が枯葉を舞い上げると真似をしてシャワーに見立てたり、集めたりするようになった。
- センダングサを投げて友達にくっつけたり、蒲の穂をほぐした綿毛を飛ばしたりするなど、活動的に遊ぶようになった。

活動のねらい

- 身近な場所で秋を探し季節の変化を感じる。
- 秋の自然物をつかって遊びを楽しむ。

- きっかけを見つけると子どもの発想は自由で次々と遊びが広がっていった。
- はじめから子どもが自由に遊ぶだけでなく、保育者が遊びを提示することで、子どもは工夫して遊びはじめ発想がどんどん広がっていくことが分かる。

「わたげにフーウ！」



- 保育者は子供の遊びが広がるようにいろいろな引出しをもっておくことが重要と感じた。
- 自然の中でもっと体をつかった遊びができるように環境設定の工夫が必要と感じた。田川保育園や園の周辺には自然環境が豊富にあるが、公園、水田、河川に囲まれており、山林からは少し離れている。通常保育のことも考え、園の周辺で「森の保育」を行ったが、山の傾斜や森林の中で行うとより活発な動きや気づきにつながるのではと感じた。
- 子どもたちは自然の中で活動することで表情が生き生きとし、友達との関わり合いも豊かになった。今後もそうした子どもの姿が見られるように計画していきたい。

☆その他の自主活動（対象：4歳児17人）

4月19日	地域散策（つくし・ふきのとう拾い）
5月9日	花集め
7月23日	親子川遊び
7月23日	ジャガイモほり体験
10月3日	サツマイモほり体験
10月26日	田川の秋探し
11月13日	落ち葉拾い（焼き芋）
2月5日	そりすべり

田川保育園 伊藤直樹園長先生

田川保育園は今年度初めて参加してたくさん学ぶことができました。もともと自然豊かな地域ですが、森の保育事業に参加することでより自然環境を積極的に活用するようになりました。園庭でのやきいもなど今までやったことないことにも取り組むことができました。今年度は隣接している公園を中心に活動をしてきましたが、今後、子どもたちがのびのびと遊ぶことができる森林の環境を整えたいと思います。

三瀬保育園 0歳児5人（その他の活動は全園児67人対象）

平成29年11月1日・6日・7日 保育園周辺及び八森山方面への散策

<活動内容>

- ・保育園の周辺や八森山方面に向かう道を散策する中で、自然物に触れる。

活動のねらい

- ・自然物との出会いを五感で感じる。
- ・活動中での発見を大切に、思いを共有していく。

「ほら見つけたよ」



- ・八森山キャンプ場までの道を歩く中で、見つけたススキや杉の枝などに興味を示し、そっと触れたり、つまんでみたり、持ってみたりしていた。
- ・1人が見つけるとほかの子もその自然物の周りに集まり、一緒に触れるなどしながら同じ気持ちを共有しているような様子も見られた。
- ・見つけたものを見せに来てくれていた。
- ・保育園周辺を散策しているときに側溝の網の上でぽっとな落としをして遊んでいた様子が、八森山への上り坂でも見られた。
- ・自由に歩くことで、じぶんが興味を持ったものに自分のタイミングで触れることができていた。

「すすきふかふか」



「何みつけたの？」



- ・子どもたちの個々のペースで歩くことで自分が興味を持ったものに満足するまで触れることができていた。
- ・自由に歩くことで自分の興味を持ったところに行くことができ、行動の幅も広がったように思われた。

☆その他の自主活動（対象：全園児67人）

通年

天気の良い日や気候の良い日は、地域の自然の中でたっぷりと活動

平成29年6月～10月 バケツ稲づくり (福栄保育園敷地内)

<活動内容>

- バケツに米の苗を植え、世話したり、生長を楽しみにしたり気付いたりする。
- 自分たちで収穫し、脱穀・もみすり・精米作業を経験し、味わう。

活動のねらい

- いつも目にしている稲作を経験し、身近に感じる。
- お米ができるまでの過程を知る。

- いつでも目につき、触れられる場所に置くことができるので、自然と関心が向き生長の変化に気づき、共感しあったり驚いたりすることができた。
- 日々観察しながら水の量にも気づき、自分の家で田んぼを作る様子を見ている子のアドバイスをもとに自分たちで調節することができた。
- 育てるだけでなく、収穫・脱穀・もみすり・精米することを経験し、白米となって食するまで大変な作業であることが分かった。

「秋の収穫が楽しみだな・・・」



「僕たちの背より
長くなったぞぉ」



「やった！収穫できた！
お米になるのが楽しみだなあ～



「お米になるまで
大変なんだな・・・」



- 稲を枯らしてしまう失敗の経験から、日当たりや水加減など色々な条件が大事になってくることを子どもたちでも分かるように伝え、感じるすることができた。
- 精米するまで大変な作業であることを子ども自ら感じることで、改めて育てている人に感謝し、大切に食べようという気持ちが育った。

平成 29 年 4 月～11 月 自然探検・わんぱくの森あそび（福栄保育園周辺・わんぱくの森）

<活動内容>

- ・散歩をしながら、色々な草花あることや、それらを利用したあそびがあることを知る。ルーペで葉脈や小動物を見て不思議さや面白さに気付く。
- ・なめこを収穫し、匂を味わう。

活動のねらい

- ・身近な自然に触れ親しむ
- ・自然に触れる中で得た経験を、自らあそびに発展させて楽しむ

「葉っぱも

生きているんだなあ～…」



「見て！

きれいな模様でしょ！」



「どんな模様ができるかな…ワクワク。」



「今年もいっぱい収穫できるね♪」



- ・葉っぱを噛んだり、ルーペを使って小動物や葉脈を見たりすることで不思議さに気づくきっかけ作りができた。
- ・今まで葉っぱを噛んで遊ぶという発想がなかった。職員も様々な遊び方があることを知り伝えていきたい。中には毒をもった植物もあるので、危険の有無を見極められることができるように自然に対する知識をもっと深めていきたい。

平成 29 年 8 月 8 日（火） 福栄かっぱ（福栄保育園散歩コースにある川・滝）

<活動内容>

- ・普段の散歩コースで目にしていた川や滝に入りあそびを楽しむ。自然の水に触れ冷たさを感じたり、生き物探し、いろいろな形の石があることに気付いたりする。
- ・年長児は毎年恒例となっている“滝修行”に挑戦する。

活動のねらい

- ・川の始まりを知り、興味・関心を持つ

- ・川で泳ぐどじょうを見つけたり、ハートの形に似た石、字が書ける石など発見したりして、夢中になって楽しむことができた。
- ・年長児にとっては憧れではあるが、不安も隣り合わせた滝修行。友達が挑戦する姿を見て刺激となりやってみようという気持ちを持つことができた。

- みんなで目標を達成できた喜びが満面の笑みとなって表れていた。
- 滝修行の経験が自信となり、顔を水につけることを苦手としていた子も頑張ってつけてみようとするなどプール遊びにも変化が見られた。

「っっ冷たい でもがんばるぞ！」



「あっ！何か泳いでる」



「見て！きれいな石を見つけたよ！」



- 馴染みある場所ではあるが、事前の下見を行い安全に遊ぶにふさわしい場所を選んだことで、未満児でも十分に楽しむ事ができた。
- 変わった石が多く落ちている場所を選んだことで、子どもたちが発見したり気付いて言葉にして伝えたりすることで、共感しあうことが存分にできた。

福栄保育園 榎本久美子先生

ワークショップに参加して学んだ、様々な活動を行う中で事前準備をしすぎないという配慮を活かして、設定された中であそぶのではなく子どもたちの気づきの声を拾いながら活動を展開することができた。また、今年度初めてバケツ縮作りの活動を取り入れ、生長を喜ぶだけでなく改めて育てている人たちに感謝の気持ちを持ったり、食べ物大切さに子ども自身が気づいたり実のある活動ができたことは良かった。これからも子どもたち自身が身近にある自然や遊べる自然物に気づくことができるように内容を工夫しながら、感性や自主性を育てていくことが出来るように活動をしていきたい。

平成29年10月12日(木)・13日(金) 山ぶどう収穫、山ぶどうジャム作り

(収穫：地域の方の山ぶどう畑・ジャム作り：年中 保育室)

<活動内容>

- ・地域の方協力のもと、山ぶどうのなり方を見学し、収穫方法を聞いて、収穫する。
- ・自分たちで山ぶどうをつぶしたり、ジャム作りの工程を見たり、味見をしたりする。
- ・食材そのものの味やジャムの味を食べ比べてみる。

活動のねらい

(収穫)

- ・山ぶどうの収穫を体験する。
- ・山ぶどうがどんな場所に、どんな風にあっているのか観察する。

(ジャム作り)

- ・調理する過程の中で“味見をする・においを嗅ぐ”という体験をし、山ぶどうという食材に興味を持つ。

「なかなか切れない…」



「味見…すっぱーーーーーーーー！」

- ・山ぶどうは粒が取れやすいということを知り、そっと山ぶどうを持って収穫した。
- ・山ぶどうの茎が硬くハサミを持つ手だけでは切れない子もいて、保育者に山ぶどうを持ってもらい、両手でハサミを持って切ろうとする子もいた。
- ・収穫した山ぶどうを一粒味見すると「甘い、すっぱい」と言って顔をしかめる子もいれば、美味しかったのか何粒も食べようとする子もいた。
- ・事前にみんなで「アイスにのせて食べる！」と決めていたため、当日は山ぶどうをつぶすことを伝えると“早く食べたい”という気持ちからか進んで山ぶどうをつぶしていた。



- ・山ぶどうを煮て濾すという作業を2回行い、その都度試飲した。匂いを嗅いでみるように伝えると「お酒のような味(発酵した匂い)」と言う子がいたり、試飲をすると「最初の(1回目)はすっぱかったけど、これ(2回目)は「そんなにすっぱくない」と味の違いがわかる子もいたりした。
- ・また砂糖を加えて山ぶどうジュースも作ってもらったが、原液だけでは酸味が強く口にできなかった子も、ジュースにすると「美味しい♪」とニコニコしながら美味しそうに飲んでいました。
- ・3日後、出来上がったジャムをアイスにのせて食べると、ジュースを飲めなかった子も「美味しい」と完食していた。
- ・3日後、出来上がったジャムをアイスにのせて食べると、ジュースを飲めなかった子も「美味しい」と完食していた。

- ・調理過程を見ているだけでは飽きてしまったため、“今はどの工程か”“次は何をするのか”と見通しが持てるように、大きく手順票を提示しておいてもよかったのかなと感じた。
- ・地域の特産物を知ることができたり、地域の人との関わりが持てたりしてよかった。

平成 29 年 10 月 27 日 (金) 中台池散策

<活動内容>

- ・ネイチャーゲームをしながら秋さがしをする。
- ・中台池の周囲を散策しながら、嗅覚・視覚・聴覚・嗅覚を感じる。

活動のねらい

- ・紅葉を見たり、木の実を拾ったりしながら、山の秋を感じる。

「この木どうやって越えていこう」



- ・切り株が並んでいるの見て「太鼓みたい」、太鼓のような切り株の上でジャンプをして音を出してみる、川の音を聞いて「ボコボコ」「サラサラ」、苔を触って「フワフワするの」「海藻みでだ」、木の蜜を見て「虫たちのレストランだ」、葉っぱのじゅうたんどう？という言葉がけに「気持ちいい！黄色いお風呂！」などたくさんの面白い言葉が子ども達から出てきた。
- ・ネイチャーゲームを用いたが、見つけた時の反応、興奮が大きかった。“サルノコシカケ”を見たことがなかった子どもたちが実際にサルノコシカケを見つけたときに目を輝かせて「あった！」という姿があった。
- ・自然の中での子どもたちは（静か且つ面白い環境で友だちの言葉がしっかり聞けるのか）いつも以上に子どもたち同士の言葉のやり取りが多かった。小さいバッタを捕まえようとしたお友だちに「お母さんがいないと育てられないから捕まえないであげて」という子がいて、その気持ちをくみ取り逃がしてあげていた。

「切り株太鼓を鳴らすぞ！」



「いろんな色の葉っぱを見つけたよ」



- ・シイタケ栽培、大網ブナ山、タキタロウ広場で虫捕まえ、山ぶどうジャム作りなどたくさんの活動をおこなってきた年中児の今年度最後の森の保育活動ということで、子ども達から出てくる言葉一つ一つが、とても面白く、大人では思いつかないような表現がたくさん出てきて、感性や五感が育ってきていると感じた。
- ・自然の中では気持ちの面でも優しくなれるなど、改めて自然の力はすごいなと感じた。
- ・行ってすぐに行った散策では子どもたちも何をしたいのかわからなかったり、小さなことに気が付かなかったりしたと思うので、ネイチャーゲームという導入はとても良かったと思う。
- ・今回ネイチャーゲームを大きな紙に一つしか用意しなかったが、自分で見ながら探せるように、一人に一つずつネイチャーゲームの用紙を準備しておけばよかった。

☆その他の自主活動（対象：4歳児22人）

5月	椎茸の駒うち体験
7月	大網ブナ山探検
8月	タキタロウ広場
1月	大網ブナ山雪山遊び

朝日保育園 佐藤彩華先生

自主保育では森の保育初心者な私でしたが、先生方の協力、そして地域の方、保護者の方々の協力の下、楽しく活動できたなと感じていますし、森の保育が以前よりも好きになったなと感じました。自然活動を通して、こんなにも子どもたちの五感が磨かれ、育っていくのかと驚きました。

朝日地域には大網ブナ山、中台池などたくさんのフィールドがあるにも関わらず、行ったことがある保護者が少ないことに「もったいない！」と感じました。広報などでワークショップ参加者は増えていますが、もっとより多くの人に自主的にフィールドに立ち寄って遊んでもらい、子どもの生き生きとした姿を保護者の方に見て感じてもらいたいなと思いました。また、鶴岡の恵まれた多くの自然というフィールドをマップにして紹介したり、そこでの子どもの様子なども紹介したりするのもいいのかなと思いました。

森の自然体験

研究会では、保育園に在園している子どもに限らず、一般の子ども、親子を対象とした自然体験活動も推進しており、実施の支援を行っています。

子ども家庭支援センター

平成 29 年 6 月 6 日（火）自然の中であそぼう・春 （三瀬海岸、三瀬保育園）

<活動内容>

- 親子それぞれのペースで好きな場所や好きなあそびを見つけて楽しむ。（貝殻やシーグラスの宝物集め、波と追いかっこ、砂浜でケーキ作りなど）
- 三瀬保育園で昼食を食べ、園舎を散策する。
- 三瀬駅から鶴岡駅まで、電車に乗る。

活動のねらい

- 海岸をゆっくりと散策しながら波打ち際で遊んだり砂遊びをしたりして、親子で自然にふれながら楽しむ。
- 波の音、磯の香り、波しぶきの感触など五感を使って自然を感じる。

- 初夏に海に行く機会がなかったというご家庭が多く、海と空の青さに圧倒された様子だったが、お家の方が夢中でシーグラスを拾う姿を真似ることから遊びが始まり、しばらくするとそれぞれ興味のある場所をみつけてあそび始めていた。
- 波の音に驚いて「ひこうき？」と聞いたり、磯の香りを感じて鼻をクンクンとさせたりと、身体全体で感じている姿が見られた。
- 漏斗に水を入れては上から覗き込んで水がなくなる様子を不思議そうに見ている子、海に注ぎ込む小川の水をすくおうと精一杯手を伸ばしている子など、保護者の方も汚れを気にせずじっくりと見守ってかかわっていた。満足するまでくりかえし楽しんだ後の子どもたちの表情はとてはれやかで見守る保護者の方の表情もとても印象的だった。

「いっぱいすくえたぞ。」



「きたきた！波がきた～！」



- 初めての場所や経験に戸惑う子も見られるが、無理に誘わずに「自分もやってみたいな」と思えるような楽しいあそびを見せて時間を保障していくことで、夢中な姿につながると感じた。
- 保護者の方も夢中になって楽しむことで「もっとやってみたい」「また来たいね」という思いにつながる。鶴岡市の自然の美しさや自然物を取り入れたあそびを伝えながらも、自分らしい発見ができるように自由に散策する時間を設けることで、一日限りのイベントで終わらずに自然にふれるきっかけにつながると感じる。

平成29年 10月5日（木）自然の中であそぼう・秋 （三瀬八森山）

<活動内容>

- 親子それぞれのペースで好きな場所や好きなあそびを見つけて楽しむ。（虫捕まえ、どんぐりやお花のお弁当作り、しゃぼん玉の追いかけっこなど）
- 親子でさつま芋を包んで焼き芋を作ったり、釜戸でご飯を炊いたりして味わう。

活動のねらい

- 親子で自由に散策しながら自然のおもしろさや楽しさを感じる。
- 戸外で焼き芋をしたり、釜戸でご飯を炊いたりして秋の味覚を味わう。

「見て見て！わたしのバッタさん♪」



「バッタさん、いるかな…」



- 保護者の方も率先して虫捕まえやどんぐり集めをして親子で夢中に楽しむ姿がたくさん見られた。
- 網で捕まえたトノサマバッタを虫かごに入れる時に、体をびくびく震わせて逃げようとする様子を指先から感じて、「おお！」と驚く子がたくさんいた。その後バッタをそっとつかんだり大切そうに虫かごをのぞいたりしていた。
- 親子でさつま芋を新聞紙とホイルで包む手伝いをしてもらったことで、「お芋、見に行く」

「できたかな」と楽しみにしている子も見られた。普段は食事中にじっとしていない子が夢中で食べる様子を見て、「自分で作ったからおいしいんですね」と感心される保護者の方もいた。

- 一斉で活動せずにスタッフもゆったりと見守るようにかかわった。それぞれのペースで好きなあそびを見つけて楽しんでもらうことができた。
- 小さな虫の力強さや命についても気が付くきっかけになったと思われる。
- 焼き芋や釜戸でご飯を炊いて食べるなど普段できない経験を取り入れることで関心が高まり、香りやつやの違いを見つけておいしそうに食べる姿が見られた。自分で作って食べることの大切を改めて感じた。

鶴岡市子育て推進課 子ども家庭支援センター 山田 知子先生

自主保育でもワークショップでも、それぞれの親子のペースで好きなあそびや場所を見つけてもらえるようにしたことで、トノサマバッタの脚の力強さや網状の葉っぱの美しさなど、お子さんの発見にお家の方が一緒になって見たりふれたり感じたりして下さっている姿が印象的でした。驚きや発見に寄り添ってくれる方がいることで、子どもたちにとってより魅力的な体験になるのだなと感じました。森の保育事業ですごした時間が親子共に素敵な宝物になることを願っています。

中央児童館

平成29年10月14日(土) ツリークライミングに挑戦しよう!

(鶴岡市中央児童園内の欅の木)

<活動内容>

- ツリークライミングジャパン講師指導の基、専門のロープを使った木登りに挑戦する。(4回に分けて、1グループ約50分間体験をする。)
- 登り方、降り方、安全装置の作り方その他注意点を覚えてから挑戦する。

「もっと上まで！」

活動のねらい

- 五感を働かせながら自然に親しみ、自然を大切にする気持ちを育む。
- 自分の力で行うことで達成感を味わい、活動を通して児童遊園の四季を感じる。



- ・初めて体験する子、何回も参加したことのある子さまざまおり、ロープの扱い方、登る手順を覚えるのに若干時間がかかったが、コツを掴むと皆上手に登っていきることができていた
- ・時間が経つにつれて上がっていく速さが増していった。
- ・普段体験できない高さからの眺めをどの子も楽しんでいる様子で、枝にタッチすることで達成感を味わっているようだった。

「 高くて良い眺め♪ 」



- ・当初は5月の開催予定だったが、雨天と雷注意報発令により中止となったため、講師と相談し10月に延期となった。葉が多い枝も多く、登れる枝が少なかったが人数も少なかったので良かった。
- ・今後開催していくにあたり、雨天時は何か別の内容も考慮するべきかとも思ったが、皆遊園の木でのクライミングを楽しみに申し込んでくれているので、それ以外の内容を考案しても魅力は薄れることが予想される。
- ・来年度は春、桜の時期に開催できれば良いなと考えている。

平成29年10月5日（木）なかよしクラブ 秋の遠足

（山形大学農学部 高坂農場 / 櫛引総合運動公園）

<活動内容>

- ・リンゴ狩り
- ・動物との触れ合い体験
- ・公園内はらっぱ等での自由あそび

活動のねらい

- ・親子で気軽に自然に親しむ機会をつくり自然の中であそぶ楽しさを知る。
- ・自然の中でゆったりと流れる時間をつくりリフレッシュする。
- ・子どもたちの好奇心を育てる。

- ・農場の職員の方からどんなリンゴを採れば良いか採り方等の説明を受けてから親子で4個ずつじっくり選んでいた。
- ・親御さんに抱っこをしてもらいながら高い所にあるリンゴを採る子もいてそれぞれ楽しんでいる姿が見られた。

- 農場内のヤギとの触れ合い体験では動物たちにはじめは恐る恐るエサを与えていたが、慣れてくると表情も和らぎ「可愛い」「はいどうぞ」等声をかけ食べさせていた。
- 公園での昼食後のあそびは主に遊具だったが、なかには小川に足を入れる子もいた。その子を見て一緒に入る子が増えていった。足に当たる水の流れの感触を楽しんでいる様子だった。

「お食べ～」



「おおきなリンゴゲット！」



- リンゴ狩りと動物触れ合い体験を行ったわけだが、自然体験活動としては物足りない内容になっていると感じる。
- 天気には恵まれたのでちょっとした製作活動など出来たかもしれない。

平成29年11月4日（土） 森でクッキング in おおとり
朝日大鳥地区（タキタロウ館 / ブナ山）

〈活動内容〉

- ブナ林にてなめこの収穫体験や散策
- なめこを使っての料理体験
- 棒パン作り

「ヌルヌルでおもしろい」



活動のねらい

- 地域の森林や自然の中での体験を通じ、豊かな感性や健康な身体と心を育成する。
- 山里の旬の食材を通じて「ご馳走」の意味を考える機会をつくる。
- 他の学校の友だち同士の交流を図る。

- 雨の中の活動となり、山の中の陰しい場所でのなめこ採取となったが、子どもたちはそんな環境をむしろ楽しんでいる様子だった。
- 散策中イモリや大ミミズ等普段自分たちが住んでいる場所では会えない生き物も見れて良かった。
- 昼食時の献立は子どもたちにとって珍しいかったようで調理にも積極的に参加してくれ、完食してくれる子がほとんどで好評だった。

「焼き上がりが楽しみ」



- 急斜面の登り降りやフワフワの腐葉土を踏み締める体験等短時間だったが、森の自然に触れあえる良い時間となったと思う。
- 棒パン作りは途中生木を使用したこともあり、火力が強すぎて炭化したものになった子もいて残念だった。風も強かったこともあり戸外での調理の難しさを感じた。

鶴岡市中央児童館 大島 潤子先生

今年初めて森の保育担当となり、あっという間の一年。中央児童館の年間主催事業と重なることが多く、個人的にも楽しみにしていたワークショップやフォーラムにはなかなか参加できなかったことは本当に残念でしたが、打ち合わせ等で、他施設・園の先生方と一緒に活動させていただく中だけでも、たくさんインスパイアされることが多かった一年となりました。

なかでも「三瀬・ひゃくねん森」でのプレワークショップ。ログハウスの方々はもちろんのこと、参加された先生方一人ひとりの熱い思いや心意気がバンバンと感じられ、鶴岡に生まれ育ったことを改めて誇りに思えた時間となりました。

この「イイ感じ!」、これからも日々「未来を拓くつるおかの子どもたち」にコツコツと、そしてしっかり伝えていきたいと思っています。

ワークショップ（初夏・初秋・秋・冬）

四季折々の豊かな“ありのままの自然”を楽しんでもらうというコンセプトで年に4回実施。事前準備をしすぎず、参加者それぞれが、自然の中で自分なりの遊び方や楽しみ方を見つけてもらうことに取り組みました。

初夏

☆日時 7月29日（土）10時～13時30分

☆参加者 未就学児とその家族8組22人

☆会場 三瀬ひやくねん森

☆内容

地域の方々の協力のもと、ひやくねん森の散策や旬の食材を使った調理などを通して、ありのままの自然を感じながらゆったりと過ごした。

米粉を使ったピザ生地づくりの中で食材の手触りを感じたり、野菜切りなどに子どもたちが進んで取り組んだりする姿が見られた。



初秋

☆日時 9月2日(土) 10時~13時30分

☆参加者 未就学児とその家族 12組 35人

☆会場 三瀬海岸(三瀬海水浴場)

☆内容

子どもたちがそれぞれの海遊び、浜辺遊びを自分なりの遊び方や楽しみ方を見つけながら楽しむことができた。新鮮な魚を調理する中で、魚の種類によってウロコの状態が違うことなどを実際に触れながら知ったり、旬の野菜の甘さを感じたりしながらおいしくいただくことができた。



秋

☆日時 10月14日(土) 10時~13時30分

☆参加者 未就学児とその家族 12組 28人

☆会場 大網のブナ山

(朝日東部コミュニティーセンター周辺)

☆内容

地域の方の協力のもと、なめこ採り体験をしたり、採ったなめこでお汁を作ったり、「納戸の大根」などの旬の恵みをおいしくいただいた。小学生のお兄さんやお姉さんの遊びのお手本があることで、子どもたちが自分で考え、危険回避しながら、個々のできる力に応じた」遊び方を楽しむことができた。



冬

☆日時 3月4日(日) 10時~13時30分

☆参加者：未就学児とその家族 17組 37人

☆会場 旧大網小学校

☆内容

地域の方々の協力のもと、巨大かまくらを囲んだフィールドでそれぞれの興味にあった雪遊びを楽しんだ。

初めての友達同士でも大きい子が小さい子の面倒を見たり、やり方を教えたりする様子や、かまくらからのおしり滑りを繰り返す中で、バランスよく滑ることができるようになる様子などが見られた。

季節ならではの甘酒の“冷たいもの”と“温かいもの”の味の違いを感じたり、つきたての餅入の雑煮汁などをおいしくいただく機会にもなったりした。



つるおか森の保育フォーラム

先進的な取り組みをしている森の保育実践者の講演やパネルディスカッション、当研究会の活動報告などを行い、保育者・保護者はもとより、広く市民を対象に学習の場・情報交換の場として、開催しています。今年度は活動報告と講演会、座談会の3部形式で開催しました。

○日時 11月26日(土) 13時~16時

○来場者 大人61人、託児利用の子ども24人 合計142人(スタッフ含む)

○会場 第3学区コミュニティーセンター 大ホールほか

○内容 第1部 活動報告 リレートーク

「森の保育で見つけた とっておき」 座長 渡部祐子、本間日出子

第2部 講演「認定こども園と連携した森のようちえんと自然体験活動」

講師 長谷川 右 氏 (さつなえのもり園長/札幌市)

第3部 座談会「森で育つこと」 座長 平 智 氏

メンバー 加藤章、渡部順子、佐藤純子、伊藤直樹(敬称略)

第1部で、各団体やワークショップの活動について、「とっておき」の1枚の写真を紹介しながらの報告を行った。

第2部では、認定こども園長でありながら未就学児の自然体験活動に精力的に取り組む NPO 法人代表も務めておられる長谷川氏を講師に迎え、大自然の中での様々な活動の紹介や留意していること、スタッフ研修の重要性などについて講演いただいた。

第3部の座談会では、ワークショップに協力いただいた地域の方や参加した保護者等をメンバーに「森で育つこと」をテーマに意見交換を行い、鶴岡らしい森の保育について会場で共有することができた。

会場内では、休憩用として甘酒や梅ポーロ、おこし等をふるまい、鶴岡の食に親しんだほか、手作りの「わらびとなめこのお汁」や「さつまいも餅」を準備し、森のめぐみにちなんだ食育の推進にも取り組んだ。

このほか、託児「つる森 おか森ほいくえん」を開設し、自然素材を使った工作など森の保育を取り入れた遊びを楽しんだ。





写真パネル展

「つるおか森の保育事業」及び「つるおか森の保育研究会」について、広く一般の方に知っていただくことを目的に、写真パネル展を開催しました。森や川、海など身近な自然の中でいきいきと活動している子どもたちの様子や各園の工夫を凝らした活動を紹介しています。

- 開催期日 平成30年2月1日（木）～23日（金）
- 開催場所 鶴岡市役所 1階 市民ロビー
- 内容 今年度の活動を紹介した写真パネルの展示
（14団体とワークショップの3コース）



研修会

○開催期日 平成30年2月13日(月) 10時20分～15時45分

○開催場所 田麦俣多層民家周辺・朝日東部コミュニティーセンター

○内容 第一部 体験活動「かんじきウォーク」 講師 渋谷 一志 氏

第二部 グループワーク「伝わる報告書づくり」 講師 松本 典子 氏

多層民家周辺で腰までの雪をかき分けながら斜面を登るかんじきウォークの体験活動を行い、体験レポートの作成を写真を効果的に用いながらグループワークによって行った。

○参加者 16人(スタッフ含む)



森の保育だより

つるおか森の保育研究会

子供が指す子どもたちの豊かな感性や健康な心身を養うためには、森林や自然環境を活用した主体的な学習活動が重要である。この研究会では、自然環境を活用した主体的な学習活動の推進や、研究を行っています。

- 発足：平成22年4月
- 構成：宇治市・保育園・児童館、子育て支援センター等。（2名団体・個人）
- 主な事業：交流保育、自主保育、小学生や親子対象の体験活動、食育、ワークショップ、フォーラム

発足から8年目を迎え、事業によるオリジナルロゴを作成しました。



つるおか森の保育研究会
事務所：宇治市健康福祉センター子育て推進課
山形県宇治市馬場町2番25号
TEL:0238-25-2111 FAX:0238-25-2167
E-MAIL:kosodogyo@city.yuzuyuoka.yamaguchi.jp
平成30年2月発行

危険なよ！気をつけて！

ウルシの仲間
触るとかゆくなったりかぶれたりするよ。



ツタウルシ ママウルシ

ハチ・ヘビ（マムシ・ヤマカガシ）
見たら近づかない、触らない！



スズメバチ マムシ ヤマカガシ ヤマカガシ（雄）

沢水やキノコなどは口には入れない、山菜などは勝手に取らないようにしましょう。

出かける時の服さう

ちよっと暑くても、長袖・長ズボンで出かけましょう。ケガや虫刺されを防ぎます

♪ ぼうし強い日差しや小雨から頭を守ってくれます。

♪ くつ・長靴はきかかれています。濡れても大丈夫なものをきましょう。

♪ 水とろーこまめに水分補給をしましょう。





目を閉じて、耳をすまして



べんりバックを作ってみよう

<材料>

- シッパ（付ドニール靴）
- ひも（履掛け用）
- 好きなシールやテープ

<作り方>

1. シッパ付ドニール靴のシッパの下あたりに内掛けハンチ等で2か所内を開けます。（内を開けず、テープで止めるだけでもOK）
2. ひもを内に通します。（紐の長さはお子さんに合わせて調節してくださいね。）
3. 好きなシールやテープを貼ってできあがり！

さあ出かけよう！



とっておきの1枚

「おからみんなが見える」



「おねえ、このこ、逃げたいわ！」



「いた！そりーとー」



つるおか 森の保育 だより

第1号



ゆっくりと深呼吸
どんな音が聞こえます？

① 大綱ブナ山

☆ターザンロープ・木の实ひろい・生き物さがし・木登りなど

ロープを使って斜面のぼりやターザンロープができます！ロープは短いものと長いものがあり、大人も乗れるくらいしゃかりと作られています！

② 湯殿山 中台地

☆木の实ひろい・生き物さがし・木登りなど

ブナの实がたくさんあります。山の生き物の痕跡を見つけることができます。池の岸のミズイモなどの生き物を見つけることもできますよ。

③ 児童遊園 (中央児童館)

☆草花摘み・生き物さがしなど

四季を通じて様々な樹木や草花があり、それに合わせてくる鳥や小動物の姿がたくさん！四季を通じてたくさんの自然に触れることができます。春には自然観察会、夏は野営を兼ねたクッキングやツリークライミング体験ができるイベントなどの企画もありますよ。

④ 金峰山 (金峰少年自然の家)

☆落ち葉・木の实ひろい・生き物さがしなど

紅葉時期には、木の实（どんぐり・松ぼっくり・赤い実）や色々なキノコ、葉っぱがいっぱい！黒豆台からの景色も美しい眺めですよ。

⑤ わんぱくの森 (福保保育園裏山)

☆自然物ひろい・小動物探し・ロープ登り・木登りなど

どんぐりや栗の实があります。色々な草花や自然物もあり、発見したり観察したり、調べたりすることができます。小動物に出会えるかもしれませんよ。

～私たちの活動場所を紹介します～

さあ、森へ♪



⑥ 大山 太平山

☆自然物ひろい・木のぼりなど

たくさん種類のきのこ、どんぐりを見つけることができます。高台から、大きな下地や上地が見えて景色が最高！さまざまなコースがあり、小さい子から大人まで楽しめますよ。

⑦ 赤川河川敷

☆草花摘み・生き物さがしなど

たくさん草花が生い茂り、季節の変化を楽しめます。草木カクシムリや木の实を見つけることもできますよ。電車を間近で見ることができるとおもしろいです！

⑧ ケヤキの森 (徳光園そば)

☆山道散歩・落ち葉・木の实ひろい・生き物さがしなど

たくさん自然の色や音、木の实、花などを探しながら山道散歩ができます。動物の痕跡を見つけることもできますよ。

⑨ 三瀬 八森山

☆草花摘み・生き物さがし・焚き火クッキングなど

四季を通じてきれいに整備されており、小さい子どもでも楽しめます。四季を通じている花が咲き、春はソメイヨシノ、秋は紅葉が見事に咲き、4月の中旬には斜面一面カクワの花畑になります。焚き火クッキングが出来るのも魅力です！

クロモジの葉っぱいい匂い、ブナの葉っぱのじゅうたんなサイコー！



山の新緑すべりや石垣のぼり、古い縄文時代の土器がいっぱい！



ジャングルへいざ出発！女にがいるか〜ドキドキ



「おれ、どうやってするの？」 「うわー、手がプルプルする〜！」



いろいろな種類の生き物を見ることが出来るよ〜！



森の保育活動新聞等掲載記録

荘内日報掲載「森の時間」(平成29年5月12日)

森の時間

つるおか森の保育 研究会からみなさんへ

福留市つるおか森の保育研究会は、「自然の中で遊ぼう」という事業を今年2回(春秋)開催しています。これは、つるおか森の保育研究会の活動の一環で、自然の中で遊ぶ楽しさや喜びを味わってほしいと考えて開催しています。舞・山・川に囲まれた福留の豊かな自然を、自然に直接触れる機会や野外に出かけることが少ない親子に知って

自然の中で遊ぼう！ 伝えたい！

福留市子ども遊具支援センター

佐藤 美紀



「あれっ、虫かな？…そおーっと、そおーっと…」(安野知樹さん撮影)

もらえたら、そんな嬉しいことかたたくさんありました。大規模公園と交流したとき、散策の途中に石垣の中から2匹のヘビが顔をのぞかせる場面に出会いました。母親たちが「お驚かすはずば

は虫をあげましたが、子どもは興味津々…。思いもよらずに出会った石垣のまわりに参加者の心かかりができました。秋は山を歩かなくていいから、「おいまご」と一口食べながら、その姿を眺めながら遊ぼうと話をし始めました。娘やが食べたあとの姿を見ながら、「お驚かすはずば

思えばケレンな手です。あつという前に歩みだれにのり手した。子どもたちは打ち感える彼の不思議な表情を体感したり、彼との遊びかけっこを楽しんだりしました。そんな姿や表情のほほえましく、生き生きとしていることといたって、お母さんたちも驚かすはずば

くはないかな？」そんな子どもたちのつぶやきも聞かれました。オオムシやクワガタは、夢中になりすぎた男の子が虫に近づきすぎて、尻尾を振り回す姿もありました。また、虫が嫌いだった子が、自分の手のひらにひとつある大きなクワガタを捕まえてみせました。子どもたちの健康は心配ないかという声に、参加した家族が話し合っていました。歩くことが楽しくなってきた。夜の森がささやく聞かれることで、自然に触れるのはこの日はじめてです。この体験をきっかけに親子で自然の中で遊ぶ機会をもっと増やして欲しいです。

本紙ホームページでも
カラー写真が閲覧できます。

つるおか森の保育研究会の概要

幼児期における森の保育の意義

東北一の面積を誇る鶴岡市は、市域面積 132ha のうち約 7 割が森林であり、その豊富な森林資源を活用して行政施策を展開する「森林文化都市構想」を掲げています。

人と自然との直接の対話こそが森林文化の原点であるという考えのもと、当研究会は平成 22 年 4 月に発足し、次代を担う子どもたちの豊かな感性や健康な心身を養うために、森林や自然環境を活用した具体的方策についての情報収集や活動支援、研究を行っています。未就学児童の自然環境に親しむ中での「気づき」や「感じる心」を育み、共感の心や見る力を養うことを大切にして各種事業に取り組むことで、豊かな保育・子育てを支え、保育の質を高める一つの道しるべとなることを期待しています。

組織・運営体制

つるおか森の保育研究会は、保育園、児童館、子育て支援関係者等で構成しています。

■研究会の構成（平成 29 年度末現在、26 団体・個人）

○会 員

神田 リ工	会 長	元山形大学農学部 生物環境学科助教
渡部 祐子	副会長	朝日保育園 園長
本間 日出子	副会長	三瀬保育園 園長
齋藤 由美子		かたばみ保育園 園長
佐藤 静子		東部保育園 園長
阿達 美枝		西部保育園 園長
高取 千昭		南部保育園 園長
高橋 奈津		松原保育園 園長
羽 生 充		ちとせ保育園 園長
高 橋 亨		大山保育園 園長
平藤 久喜		大泉保育園 園長
佐藤 崇昌		民田保育園 園長
土岐 邦子		小堅保育園 園長
秋野 涼子		上郷保育園 園長
伊藤 直樹		田川保育園 園長
梅木 道男		黄金保育園 園長
富樫 正井		大東保育園 園長
丸山 弘美		いずみ保育園 園長
五十嵐 美智		福栄保育園 園長
栗田 英明		中央児童館 館長
太刀川 悦子		NPO 法人みらい子育てネット山形 理事長
石 田 幸		元中央児童館長・元公立保育園長
長谷川真弓		元中央児童館長・元公立保育園長
東海林 敦		環境課長
斎藤 智博		農林水産部農山漁村振興課長
榎本 陽子		子ども家庭支援センター所長

○顧 問

平 智 山形大学農学部食料生命環境学科教授

交流保育

市街地にある保育園の子どもたちが、自然に恵まれた環境にある保育園を訪問し、自然体験活動をととした交流保育を行います。

自主保育

日常的な保育に自然体験活動を積極的に取り入れます。活動フィールドは、園周辺の身近な自然から、大きな自然まで様々です。

小学生や親子対象の体験活動

子ども家庭支援センター、中央児童館が実施している事業で、森や海で、ダイナミックに自然の雄大さを体験します。

食 育

地域で採れるきのこや山菜、魚など自然のめぐみを活かした食育の推進に取り組んでいます。

ワークショップ

親子で森の保育を体験できるワークショップを開催しています。各施設において森の保育に携わっている会員等の勉強の場でもあり、横の連携が図られます。

フォーラム

先進的な取り組みをしている森の保育実践者の講演や当研究会の活動報告等を行い、保育者・保護者はもとより、広く市民を対象に学習の場、情報交換の場を提供します。

資 料

つるおか森の保育研究会 会則

(名称・所在地)

第1条 この会は、つるおか森の保育研究会（以下「研究会」と言う。）と称し、事務局を鶴岡市健康福祉部子育て推進課に置く。

(目 的)

第2条 研究会は、次代を担う子どもたちが地域の森林や自然環境での体験を通じ、子どもたちの豊かな感性や健康な心と身体を養うために、森林及び森林資源を活用した具体的方策についての情報収集並びに研究することを目的とする。

(活動内容)

第3条 研究会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 自然体験プログラムの開発や実践
- (2) 自然の恵みを活かした食育等の実施
- (3) その他研究会の目的達成に必要な事項

(組 織)

第4条 研究会は第2条の目的に賛同する団体及び個人をもって組織する。

(役 員)

第5条 研究会に次の役員を置く。

- (1) 会 長 1名
- (2) 副会長 2名
- (3) 監 事 2名

(役員を選任)

第6条 会長、副会長は会員の互選により選任する。

2 役員任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

(役員職務)

第7条 会長はこの会を代表し会務を総括する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会 議)

第8条 会議は研究会とし、必要に応じて会長が招集する。

(会 計)

第9条 研究会の必要経費は、市の補助金その他の収入によって賄う。

(委 任)

第10条 この会則に定めるもののほか、研究会の運営に必要な事項は会長が別に定める。

附 則

この会則は平成22年 4月27日から施行する。

この会則は平成23年 5月27日から施行する。

この会則は平成24年 5月30日から施行する。

この会則は平成25年11月14日から施行する。

この会則は平成26年 6月 5日から施行する。

発足から8年目を迎え、公募によりロゴマークを作成しました。

“森”の文字を3本の木で描き、それぞれの木の色は、
新緑から紅葉へと移っていく森の様子を表しています。

この木が何の木なのか…、みなさんでイメージを
膨らませてみてください。

森の活動では、五感をふんだんに使って、
いろいろなイメージを膨らませることができます。



29年度 つるおか森の保育活動記録

おもしろっけの〜♪

森

平成30年10月発行

つるおか森の保育研究会

事務局：鶴岡市健康福祉部子育て推進課

山形県鶴岡市馬場町9番25号

TEL 0235-25-2111

FAX 0235-25-2167

E-Mail kosodate@city.tsuruoka.yamagata.jp



森林文化都市・鶴岡